



業務効率化や決算早期化へ 予算/会計システムを再構築

NSSOLがITパートナーとしてプロジェクトを強力に支援

背景

業務効率化、決算早期化、将来のIFRS(国際会計基準)対応などに向けて、予算/会計システムを再構築する。グループ全体にわたり勘定科目の統一と業務の標準化を進めることでガバナンスもさらに強化したいと考えた。



株式会社モスフードサービス
経営サポート部
経理グループリーダー
丸尾 宗嗣氏



株式会社モスフードサービス
経営サポート部
情報システムグループリーダー
藤井 応子氏

ソリューション

長年のITパートナーである新日鉄住金ソリューションズの支援により、ERPパッケージ「ProActive E²」を選択。NSSOLの綿密なプロジェクト管理により、パッケージの標準機能を生かしつつ必要な開発を行って新システムを導入する。

成果

計画通りのコストと期限で新システムが完成。勘定科目の統一と業務の標準化が一層推進され、業務効率が向上した。また、ランニングコストを下げながら、海外を含む決算早期化などに向けた業務基盤を構築できた。

業務効率化などに向けて、新たな予算/会計システムの導入を検討

「食を通じて人を幸せにすること」を企業目標に掲げるモスフードサービス。フランチャイズシステムによって全国1408店舗（2015年2月末現在）を展開する「モスバーガー事業」や、「マザーリーフ」などの飲食店事業を手掛けている。

同社が予算/会計システム再構築の検討を開始したのは、2011年である。当時、同システムは導入から5年以上が過ぎ、保守による機能向上にも限界が近づいていた。再構築に先駆け、モスフードサービスは長年のITパートナーである新日鉄住金ソリューションズ（以下、NSSOL）の支援のもと、現状業務分析を実施。業務効率化、決算早期化、将来のIFRS対応をはじめ、グループ全体にわたる勘定科目の統一と業務の標準化による連結決算効率化やガバナンス強化に向けた課題を洗い出した。

実績豊富でコスト効率が高い「ProActive E²」を選定

現状業務分析によって洗い出された課題の解決に向け、モスフードサービスはNSSOLの強力なリードにより、RFP（提案依頼書）作成や数値指標に基づくパッケージソフトウェアの選定コンペを実施。2012年11月にはRFPをまとめ、複数のソフトウェアベンダーに提示して、SCSKのERP（統合基幹業務システム）パッケージ「ProActive E²」を選定する。同製品は予算と財務会計などの業務を単一製品でカバーしており、システム利用者が約400人と多いモスフードサービスでもコスト効率が高い。

導入プロジェクトは2013年2月にスタートした。NSSOLは、バージョンアップによる法規制変更への対応などを容易にするため、パッケージの標準機能を最大限に活用するというモスフードサービスの方針のもと、SCSKとともに導入プロジェクトを推進した。

綿密なプロジェクトマネジメントで計画通りのコストと期限を実現

NSSOLの綿密なプロジェクトマネジメントにより、プロジェクトは円滑に進んだ。同社は、プロジェクト参画者の業務繁忙期を避けて会議体のスケジュールを作成。パッケージ標準機能の利用を基本としながら、利用頻度が高く業務効率上のメリットが期待できる部分については柔軟に追加開発を行っている。

新たな予算/会計システムは計画通りのコストと期限で完成。2014年4月に本社およびグループ2社で、同年11月に他のグループ3社で運用を始めている。グループ全体にわたり、勘定科目の統一と業務の標準化を一層推進したことで、業務効率は大幅に向上。業務の繁閑に応じてサポートのメリハリをつけることで旧システムに比べてランニングコストを下げながら、海外を含む連結決算早期化に向けた業務基盤を構築できた。

Key to Success

モスフードサービスが予算/会計システムの再構築を行ったのは、業務効率化などを一段と進めるためである。

経営サポート部 経理グループリーダーの丸尾宗嗣氏は「以前のシステムは導入から5年以上が経過しており、保守による機能向上も難しくなっていました。そこで将来のIFRS対応などを視野に入れ、NSSOLの全面的な支援により現状業務分析と課題の洗い出しを行いました」と語る。

解決すべき課題は少なくなかった。「四半期決算が当たり前になったことで、業務効率化や決算早期化が大きな課題だということが改めて認識されました。さらにグループ全体にわたる勘定科目の統一や業務の標準化を行い、本社と同じシステムをグループ会社にも導入して、ガバナンスのさらなる強化を実現する必要があることが分かりました」（丸尾氏）

NSSOLは、RFP作成やパッケージ選定についてもモスフードサービスを全面的に支援した。

経営サポート部 情報システムグループリーダーの藤井応子氏は「RFPをまとめて複数のベンダーに提案を依頼するといった体系的な手順を的確に実施できました」と振り返る。

新システムのベースとして採用したのが、ProActive E²である。

丸尾氏は「当社と同等規模の企業グループへの導入実績が豊富であるうえ、予算管理の機能と財務会計の機能が一体化しており、一つのマスタでシンプルに管理できる点を評価しました」と話す。

藤井氏は「当社では予算/会計システムの主要機能を各部門が利用する分散入力を行っています。そうした運

用形態におけるProActive E²のコストパフォーマンスが、他のパッケージに比べて優れていました」と語る。

導入プロジェクトはNSSOLの綿密なプロジェクトマネジメントにより計画通りのコストと期限で完了した。

「NSSOLは当社の希望通り、プロジェクト参画者の業務繁忙期を避けるとともに、それぞれの都合をきめ細かく勘案して会議体のスケジュールを組んでくれました。また、他システムとの連携機能の開発では、連携先システムを開発した各ベンダーのとりまとめが必要になりましたが、NSSOLが主体的に推進してくれました」（藤井氏）

綿密なプロジェクト管理で導入支援 利用者の要望に複数の対応案を用意

システム利用者から出た要望にもNSSOLは的確に対応したという。

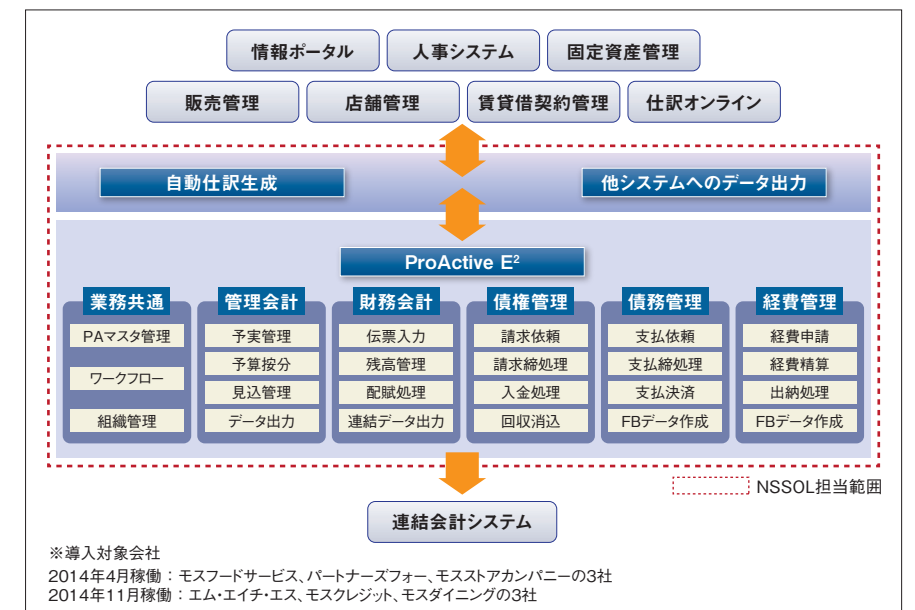
「パッケージの標準機能をそのまま使うのが基本方針でしたが、ユーザー部門からはどうしても改修の要望が出てきます。そうした場合、NSSOLは一つひとつを受け止めたうえで、コストと実現方法が異なる複数の対応案を用意し、こちらが選択できるようにしてくれました」（藤井氏）

新たな予算/会計システムは安定して稼働しており、成果も大きい。

藤井氏は「新システムは操作性が高いため、業務効率も高まっています。利用者が多いにもかかわらず、問い合わせに対応する必要もほとんどありませんでした」と語る。

丸尾氏は「勘定科目の統一と業務の標準化を本社主導で、これまでになく厳格に推進すると同時に、決算の早期化、将来のIFRS対応などを実現する業務基盤が構築できました。これからも、ともに課題を解決していくITパートナーとして、NSSOLに期待しています」と語る。

■モスフードサービスが再構築した「予算/会計システム」の概要



■コアテクノロジー

プロジェクトマネジメント、財務会計、管理会計

■システム概要

●アプリケーション：ProActive E²